

2016年7月28日(木)～11月1日(火)

9:00～17:00 水曜日休館

安田まちなみ交流館・和^{なごみ}入館料無料

安芸郡安田町安田1674-1 旧市川医院・旧柏原邸 TEL0887-38-3047



余が生土は高知県安芸郡の一小村にして
安田村と称す前は大海にして背は山嶽なり

—坂本直寛と北海道移住展—

龍馬の遺志を継いで

敬愛する叔父龍馬の夢、北海道の大地へ！

彼の地に殖拓の事業を設計し将来日本社会に
一の潔き義に生る神の国を作り度存候



「汗血千里駒」「土陽新聞」明治16年連載挿絵より

主催:安田町・安田町教育委員会

お問い合わせ 安田町教育委員会 TEL 0887-38-5711



直寛屋敷跡(北海道)

直寛(ちよっかん/なおひろ)は、幼名を習吉といい、嘉永6(1853)年10月5日、安田町に生まれました。父は高松順蔵、母千鶴は坂本龍馬の実姉です。この年、ペリーが浦賀に来航、19歳の叔父龍馬は、江戸で剣術修行をしていました。龍馬の死は、習吉13歳のこととなります。

その後、明治になって習吉は龍馬の兄権平の養子となり、名を坂本南海男(なみお)に、さらに明治17年(1884)、坂本直寛と改めました。

立志学舎に学んだ直寛は、自由民権運動を支える人物のひとりとなり、著述と演説に力を発揮します。とくにその弁舌は見事で、多くの聴衆を魅了したと言われています。

直寛は叔父龍馬の存在を常に意識していました。才谷梅次郎というペンネームを使ったことからそのことがうかがえます(才谷梅太郎が龍馬のペンネーム)。坂本龍馬の最初の本格的な伝記『汗血千里駒』(かんけつせんりのこま)では、龍馬の遺志を継ぐ人物として描かれています。

直寛の北海道行きは、叔父龍馬の抱いた開拓の夢をそのまま引き継ぐものではありませんでした。明治20(1887)年、保安条例違反で投獄された直寛は、獄中で、聖書の「モーゼ」による「ヘブライ」国建国の記述に天啓をうけ、キリスト教で結ばれた兄弟たちによる共同体の建設を構想するようになりました。当初は、榎本武揚らが計画したメキシコ移民事業への参加を考えましたが、日清戦争を経て、ロシアを見据えた「北門の鎖鑰(要所)」としての北海道に注目します。

龍馬の跡目を継いだ実兄坂本直(高松太郎/小野淳輔)が、明治初年に函館府権判事をつとめた縁も感じたのかもしれませんが。直は、龍馬の北海道開拓の同志でもありました。

明治29(1896)年、北海道開拓を決意した直寛は、盟友片岡健吉あての手紙に「**潔き義に生きる神の国**」を建設すると書きました。キリスト教徒の理想郷、そしてある種の共同体モデルをつくること、これが直寛の計画だったのかもしれませんが。

今回の展示では、安田町に生をうけた坂本直寛の生涯をたどり、直寛の北海道について紹介します。併せて「北海道の土佐人」にも光をあてます。

※開催にあたり、高知市立自由民権記念館のご協力をいただきました。

北海道 龍馬の夢・直寛の夢



直寛



坂本直

